になります。

さきほどの質問に対しては、「答えはわからない」というのが正しいかもしれません。しかし基本的には、左の脳、つまり左半球が思考をつかさどっていると考えられます（一部反対の人もいます）。そのため、左半球を優位半球、右半球を劣位半球といったりもします。しかも、脳の場所ごとに、手を動かす、足を動かすといった役割がきまっています。このことを脳の機能局在といいます。

図３　左半側空間無視の有無を確認するための絵画　左半側空間無視のある患者さんは子どもたちのいたずらのシーン（絵画の左側）を認識することができない。

## 視覚の情報の伝わり方と認識

ここで、図３を見て、「子どもたちがいたずらをしていて、男の子が今にも倒れそうになっている」と思った人がいたら、手をあげてください。

はい。皆さんは、正常です。

この絵は、実際の診察で使っています。脳のある部位が損傷された方にこの絵を見てもらって、「どんな絵ですか」と聞きます。すると、「水があふれだしている」ということは指摘しますが、絵の左側の様子をまったく説明できない人がいます。ただし、その人は絵が見えていなかったり、視覚に問題があるわけではありません。そのような方にヒマワリの絵を描いてもらうと、半分だけ描いて反対側を描こうとしません（図４）。その方がご飯を食べるとき、お盆のなかの右側のものだけを食べて左側のものは食べません。そこで、周囲の人がお盆ごと左右を逆にすると、全部食べることができるようになります。

また、横一直線の一本の線を見せて、「線を半分のところで区切ってください」というと、通常は両端を認識して真ん中に線を引きますが、さきほどの方は右四分の一のところで

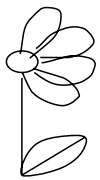

図４　半側空間無視の患者さんがヒマワリの絵を描くと（あたかも左側には何も存在しないかのように）右側のみを描いて終了してしまう。

線を引いたりします。それは絵が見えていないのではなく、左半分を完全に無視しているのです。これは「半側空間無視」という症状です。無視する側は左側であることが一般的です。私はまだ右側を無視する人を見たことがありません。これは、さっきとは違って右半球の障害で生じるといわれています。

その半側空間無視の症状がある人たちに図5の絵を見てもらいます。その人たちは、その図の右側のみを認識しているはずなので、「どちらの家に住みたいですか」と聞くと、「どちらでもいい」と答えるはずです。しかし、なぜか、「下の家に住みたい」といわれます。

このことは、何を意味しているのでしょうか。それは、無意識の段階では全体が把握できているのですが、意識のレベルにあがってくると、左側が完全に消去されて家の右側しか見えないので、本人としても、理由を説明できないものの（すなわち無意識に）、下の家に住みたいということになるのだと理解することができます。

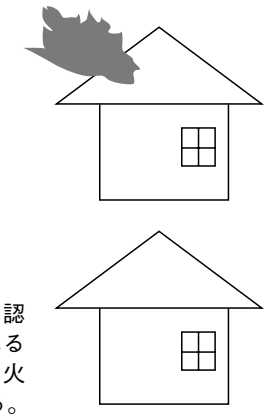

図5　半側空間無視の患者さんには火事は認識されないが「住みたい家」を問われると「下の家」と答える。潜在意識では火事を認識していることを示唆している。

そのことについては細かいことを説明すると時間がかかりますので省略しますが、脳の中心部に好きとか嫌いとかを認識する部位があって、そこにいったん情報がはいって、さらに脳の表面に伝わっていくので、一応、好きか嫌いか判断するところまでは左側を含めて全体が認識できていると考えられます。

## 脳での情報の伝わり方

脳はもっと細かい領域に分かれていて、それぞれの領域がどんなはたらきをしているかといった機能分担の様子が細かくわかるようになってきました。最近では核磁気共鳴画像（ＭＲＩ）装置が進歩してきたことから、より細かく脳の機能分担が調べられています。

私たちの研究室の近藤先生は、ある非常に小さな領域が、ある特殊な記憶に関係していることを突き止めました。一例をいうと、図6のオレンジ色の領域は、将来の予定を覚えておいて、その記憶を思い出して予定どおりに実行するときに